

2023 年度 ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 氏名 黒田菜桜

〈 研修概要 〉

2024 年 2 月 25 日から 3 月 7 日までの 12 日間、ベトナムでの海外研修に参加しました。本研修ではホーチミン市とフエ市を訪問し、チョーライ病院での臨床実習、タンアン一般病院の見学、フエ医科薬科大学での交流プログラム、フエ医科薬科大学附属病院での臨床実習を行いました。

〈 研修参加の目的 〉

2023 年 8 月に行われたベトナムの学生との交流で、初めて英語でしかコミュニケーションがとれない状況に直面しました。その際に翻訳機なしでは会話できず、スピーキング力の低さに落胆しました。さらに、相手から話しかけられることを待つ消極的な自分に気づき、改善する必要性を強く感じました。英語力と積極性を磨き、自己成長するために本研修に参加しました。

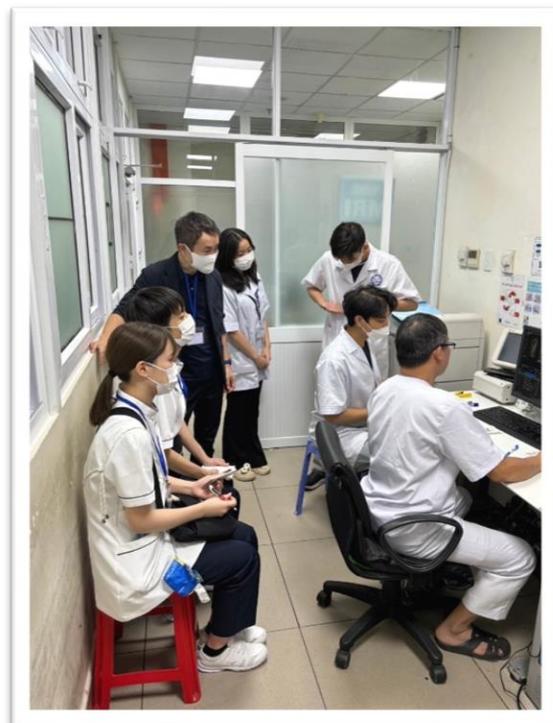
〈 研修で学んだこと 〉

チョーライ病院では、一般撮影、マンモグラフィ、MRI、CT の研修を受けました。どのモダリティも検査数が非常に多く、常に待合室は患者さんで溢れており、短時間で検査することが求められる状況でした。胸部撮影で髪の毛が照射野に入った場合でも、検査目的に影響しないと判断されれば、そのまま撮影していました。迅速かつ確かな判断によって可能な限り不要な作業を省いていました。また、チームとしても効率的に検査するために、ポジショニング、患者情報の入力、患者さんの呼び入れなどを役割分担していました。その他には、個人線量計を着用していないことやドアを開けたまま撮影することなど、日本との違いに驚きました。日本に比べて被曝に対する恐怖心が少ない方が多いと思いました。

チョーライ病院で指導いただいた診療放射線技師のチャウさんは、英語が苦手な私に「心配せず質問してきてね！勇気をもって、ゆっくりでいいからね。」と



▲チョーライ病院での集合写真



▲チョーライ病院での臨床実習

声をかけてくださり、気持ちが軽くなり積極的に質問できました。慣れてからはジェスチャーや疑問詞の強調など意図を汲み取ってもらうための工夫を加えたところ、翻訳機無しの会話が増えました。正しい文法や単語よりも伝えようとする姿勢が重要なことを体感しました。

フエ医科薬科大学附属病院では、MRI、CT、一般撮影で実習させていただきました。チョーライ病院よりも重症患者が多く、撮影時間が長い印象を受けました。一般撮影では胸部撮影と足部撮影のポジショニングを経験しました。患者さん相手のポジショニングは初めてで言葉も通じないためとても緊張し動揺しましたが、先方の学生が丁寧に教えてくれたおかげで問題なくポジショニングできました。言葉が通じないにも関わらず、躊躇うことなく意欲的にポジショニングを教える彼らの姿勢を見習いたいと思いました。

2つの病院実習での共通点は、診療放射線技師に見守られる中で学生が主体的に検査していたことです。学生が検査をすることで理解不足の内容が明確になり、検査するために必然的に学ばなければならない環境が構築されていました。そのため、先方の学生は知識が多く、同じ学生としてその差に悔しさを覚えました。ベトナムの学生は各々が診療放射線技師の業務を理解し、優先順位を考えながら行動する力を日頃から養っているため、卒後は即戦力として働けます。一方、私は学ぶ目的を意識せず闇雲に暗記していたため、得た知識の活用方法がわからないことに気がつきました。これからは目的を意識して勉学に励もうと思いました。

フエ医科薬科大学の交流プログラムでは、英語プレゼンテーションとダンス披露をしました。とても広い講堂で200名以上の方が拍手で私たちを迎えてくださり、喜びを感じる一方でプレゼンテーションへの緊張感が一気に増しました。発表直前まで震えていましたが、みなさんが温かい目で見守ってくださり、最後まで落ち着いて発表できました。ダンス披露ではVanさんや霜村先生に「頑張って!」「最後全力でやりきれ、君たちならできる」と言葉をかけていただいたおかげで全員が全力を出し切って素晴らしいステージを作り上げることができました。踊り終えた瞬間にいただいた拍手と歓声は今でも耳に残っています。大勢の方々に前に大きなステージで英語プレゼンテーションとダンス披露をやり切ったことは、大きな自信に繋がりました。

自由行動ではベトナムで有名なカフェやホーチミン市にあるサイゴン川、フエ市のティエンム一寺など様々なところに行きました。ホーチミンは高級ホテルが多く、交通量もとても多い活気ある街であるのに対し、フエは京都のような歴史ある建物が多く、緑豊かな街でした。フエでは学生さんにバイクでお土産屋さんやカフェに連れて行ってもらう、恋愛話や将来のことを話して有意義な時間を過ごしました。道に迷うことや会計の際にどの紙幣を出せばいいかわからず困ることもありましたが、心温かいベトナムの方々には優しく教えてくださいました。



▲フエ医科薬科大学附属病院での臨床実習



▲英語プレゼンテーションの様子



▲フエ医科薬科大学の学生との交流

ベトナムの国民性を肌で感じ、ほっこりしました。海外研修ではチーム全体での協力を意識して行動しましたが、自由行動の時間は自分の意思に従って自分の希望するところに行きました。充実した時間を過ごすことができ、自分と向き合う時間を作ることも大事だと感じました。

〈 まとめ 〉

本研修を通し、以前よりも積極的に行動できるようになったと感じています。パーティー会場で歌ったり、蛇を首に巻いたり、蜂の巣を持ってみたりなど、日本では絶対にしないことにベトナムでは意欲的に挑戦できました。自分の殻を破ることや羞恥心を捨てることで見える景色が変わることを体感しました。さらに、言語の壁にぶつかりながらも伝えたい想いを糧に表現力を磨いたことで、英語を話す不安が払拭できました。さらに、ベトナムの学生との交流から学習量・知識量の差を知り、勉学へのモチベーションが高まりました。本研修での貴重な経験と出会いに感謝の気持ちを忘れず、今後の自己研磨に励みます。

〈 謝辞 〉

多忙な中、実習を受け入れてくださったチョーライ病院、タンアン一般病院、フエ医科薬科大学の関係者の方々に深く感謝いたします。また、引率してくださった松尾先生、水田先生、霜村先生、石田先生、サポートしてくださった事務の方々に心から感謝申し上げます。最後に、研修の参加を支援してくれた両親、研修にともに参加した11名の仲間、本研修に関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。



▲ホイアンツアー



▲Farewell party